

# カルシウムの足跡を追って

◇20◇

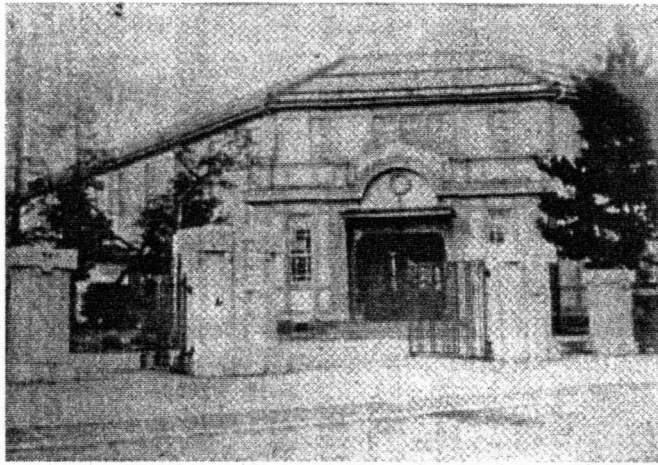
若松 秀俊

話はやや堅くなるが、松江高等学校がどのような経過と意図で設立されたのか、設立の趣意書が残っているので、一部を原文で載せておきたい。『教育機関(かん)の所在地は、利便の點(てん)よりも寧(むし)ろ周(しゅう)の感(かん)化(か)の點(てん)を多く考慮(こうりゆ)するを要(よ)す。松江高等学校の所在地は利便の點(てん)に於(お)いても、山陰(さんいん)地方(ちほう)第一(だいいち)の都市(とし)にて、同(どう)地方(ちほう)の中(ちゆう)央(やう)部に位(いた)し水陸(すいりく)交通(かうつう)の要(よ)衝(ちゆう)に當(あた)る(あ)る等(らう)、洵(まこと)に其(その)の宜(よろ)く實現(じげん)の運(うん)びとなり(なり)』(よろ)しきを得(え)たるものなり。而(しか)し(し)に感(かん)化(か)の點(てん)に於(お)ては、特(とく)に注意(ちゆうい)すべき長所(ちやうじやく)を有(あ)せり。(中略)松江(まつやま)市(し)に高(こう)根(こん)縣(けん)會(かい)議(ぎ)を以(もつ)て、島(しま)根(こん)縣(けん)選(せん)出(しゆ)代(だい)議(ぎ)士(し) 十一(じゅういち)月(げつ)松(まつ)江(え)高(こう)等(とう)學(がく)校(がう)官(くわん)制(せい)

## 松江高等学校

(中)

# 全国各地から若人が集う



昭和7年当時の松江高等学校の正門

二班に分けて、二回受験の機会を与えたとの文部省の決定があった。この知らせは、澤田をはじめ全国の入学志願者を喜ばせた。第一班は一高、五高、七高、新潟、水戸、山形、松江、大阪、東京、浦和、静岡、姫路、広島、四高、六高、八高、松本、山口、松山、佐賀、弘前、福岡、高知の十二校とし、受験生は各班から一つ、志望順位を決めて、入学願書を提出する仕組みにした。しかしこの制度は、各高校の事務係が東京に集り、一人の計六人が入学したに過ぎず、そのほかは東北の仙台一中、九州の鹿児島一中など全国各地から集まってきたので、クラスは大変にぎやかであった。

このころの生徒である縁で、気候風土も似かよった。澤田は第一志望を四高とし、松江高を第二志望として受験し、後者の理に合格した。三月十日、入学許可書を携えた彼は、金沢から約十七時間の長旅の末、目的の松江に到着した。駅で人力車に乗り、松江大橋を渡り、学院教授

が、山陰道に高等農林學校設置の建議案を衆議院に提出し、全院一致可決を得たるに始れり。然るに、同地方の中(ちゆう)央(やう)部に位(いた)し水陸(すいりく)交通(かうつう)の要(よ)衝(ちゆう)に當(あた)る(あ)る等(らう)、洵(まこと)に其(その)の宜(よろ)く實現(じげん)の運(うん)びとなり(なり)』(よろ)しきを得(え)たるものなり。而(しか)し(し)に感(かん)化(か)の點(てん)に於(お)ては、特(とく)に注意(ちゆうい)すべき長所(ちやうじやく)を有(あ)せり。(中略)松江(まつやま)市(し)に高(こう)根(こん)縣(けん)會(かい)議(ぎ)を以(もつ)て、島(しま)根(こん)縣(けん)選(せん)出(しゆ)代(だい)議(ぎ)士(し) 十一(じゅういち)月(げつ)松(まつ)江(え)高(こう)等(とう)學(がく)校(がう)官(くわん)制(せい)

このころの生徒である縁で、気候風土も似かよった。澤田は第一志望を四高とし、松江高を第二志望として受験し、後者の理に合格した。三月十日、入学許可書を携えた彼は、金沢から約十七時間の長旅の末、目的の松江に到着した。駅で人力車に乗り、松江大橋を渡り、学院教授

このころの生徒である縁で、気候風土も似かよった。澤田は第一志望を四高とし、松江高を第二志望として受験し、後者の理に合格した。三月十日、入学許可書を携えた彼は、金沢から約十七時間の長旅の末、目的の松江に到着した。駅で人力車に乗り、松江大橋を渡り、学院教授